温暖化対策　一歩前進

町民・事業所・行政が一体となり「ごみ減量・リサイクル」を推進しようと結成された「地球温暖化対策地域協議会」が一月二十九日に分科会を開催し、「レジ袋削減」と「節電」をテーマに意見交換が行われました。

近年、低炭素社会の実現に向けて、ごみ減量と環境意識の向上を目的に、環境にやさしいライフサイクルが求められる中、レジ袋削減について、奥出雲町でもサンクス、横田蔵市、Aコープ横田店を実証店舗としたレジ袋有料化実証事業を二十五年四月からスタートすることを確認しました。また、二十六年度には町内のほとんどの店舗でレジ袋有料化に対応して頂くため、町民のみなさんにご理解頂くようPRする方法などが話し合われました。

また、節電については、各家庭で五%の節電目標を設定し、どうすれば実践できるのか、いろいろな方法が提案されました。

犯罪のない安全で安心なまちづくり推進協議会設立

この度「奥出雲町犯罪のない安全で安心なまちづくり推進協議会」が立ち上げられ、設立総会が二月二十八日、三成広域交番で行われました。この協議会は井上町長を会長とし、地域活動団体・事業者・町職員など約六十名からなるもので、それぞれの団体が相互に連携して防犯意識の高揚と自主的な活動を推進し、安全に安心して暮らすことのできる町の実現を図ることを目的として設立されました。設立総会の中で井上町長は「町民が互いに絆を深め合い、守り合うことが犯罪のない町づくりには必要であり、この協議会の設立を取りかかりとしてさらに安全・安心に暮らせる町を目指したい」とあいさつしました。

今後、犯罪のない町づくりに向けた様々な取り組みが期待されています。

たたら文化講座　大盛況

二月二十三日、全国的にも注目されているたたら文化に触れてもらおうと、たたら文化講座が、日刀保たたら村下・木原明さんを招いて開かれました。会場の奥出雲たたらと刀剣館には町内外から約六十人が集まり、国選定保存技術保持者で玉鋼製造認定を受けている木原さんの話を聞き入りました。木原さんはたたらの歴史、奥出雲でたたらが復活した経緯、自身の経験や現在の活動を、写真や映像を交えて話され、公演が終わった後、参加者たちは会場となったたたらと刀剣館の資料や、木原さんが用意したけらや玉鋼に触れたり、また館内にある施設で刀匠・小林一門による作刀鍛錬の様子を見学しました。

▲スクリーンを使い説明する木原村下

島根デザイン専門学校生 県立美術館で作品展

３月６日から１１日にかけて島根デザイン専門学校の卒業・進級制作展が松江市の県立美術館で行われました。卒業する２年生は集大成として、進級する１年生は学んで来たものをしっかり発揮した展示となりました。モノ制作科ガーデニング制作専攻二年生の勝部岳さん、古藤一馬さん、安部浩介さんの共同制作は、細部まで作り込まれた模型で八川幼児園園庭案を作成し、来場者の目を引いていました。

▲八川幼児園 園庭案

古事記とギリシャ神話はこんなにも似ていた！

古事記とギリシャ神話をテーマに、開星中学・高等学校で英語教諭を務めるダスティン・ジョン・キッド氏を招いた講演会が、三月八日、玉峰山荘で開かれました。キッド氏はアメリカ合衆国アイダホ生まれ。島根大学に留学し、セントラル・ワシントン大学を卒業後再び来日、英語教師として勤務する傍ら新聞に連載を持つなど幅広く活動されています。キッド氏は「古事記を読むと日本らしい独特な部分も見られるが、他の神話との共通点もたくさん見えてくるところが面白い。人間は、人種や住むところは違っていても本質的にはそれほど変わらないのではないか」と述べ、会場にいた約五十人の参加者からの様々な質問にも丁寧に答えられました。

優秀安全運転事業所に　奥出雲交通株式会社

この度、奥出雲交通株式会社が優秀安全運転事業所として表彰されました。これは自動車安全運転センターが、職場ぐるみで安全運転、交通事故防止に努めていると認められた事業所を表彰しているもので、奥出雲交通はプラチナ賞、金賞、銀賞、銅賞とある中の「金賞」を見事受賞されました。おめでとうございます。

▲石原徳一常務

雲南地区の新酒　勢揃い

三月十一日、雲南酒造協議会主催の「雲南新酒発表会」が雲南市木次町のチェリヴァホールで行われ、約五十人の関係者が招かれました。これは、島根県酒造組合主催新酒鑑評会に出品された新酒を関係者に味わってもらおうと毎年開かれているもので、当日は奥出雲酒造、簸上清酒を含む、雲南地区五社の酒造会社から十八点の日本酒が並びました。

雲南酒造協議会の田村明男会長により審査講評が発表され、今年は米質が少し硬かったものの、蔵元の努力もあり全体的にも高品質、豊潤で後切れの良いものが出来ているということでした。式典後は持ち込まれた新酒を飲みながらの懇談会も開かれ、それぞれの蔵元も、関係者と共に満足の出来に舌鼓を打ちました。

▲講評を発表する田村会長

斐伊川流域の未来を考える会議開催

二月二十五日、斐伊川流域における低炭素型国土形成のための連絡会議が雲南市のラメールで開催されました。この会議は「木質バイオマスからはじまる斐伊川流域圏の持続可能な地域づくりワークショップ」と題して国土交通省が主催したもので、豊富にある森林を利用し、かつ環境保全と収益確保の双方が図れる持続可能な地域活性化の取り組みについて、講演を聞きながら考える場となりました。

この中で行われたパネルディスカッションには、阿井地区で農業に専業で取り組み、島根県林研グループ連絡協議会副会長を務める響繁則さんがパネリストの一人として招かれました。響さんは、自身が実行委員長を務める奥出雲町オロチの深山きこりプロジェクトについて説明し、「森林は我が国において利用できる数少ない資源の一つである。これからも周辺地域の人々と協力してプロジェクトを広げていきたい」と話されました。

▲パネリストの響さん（左から3人目）